



米穀機構 情報部

No. 12

2008年12月発行

(社)米穀安定供給確保支援機構(米穀機構)情報部
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町15-15
TEL.03-4334-2161 FAX.03-4334-2167

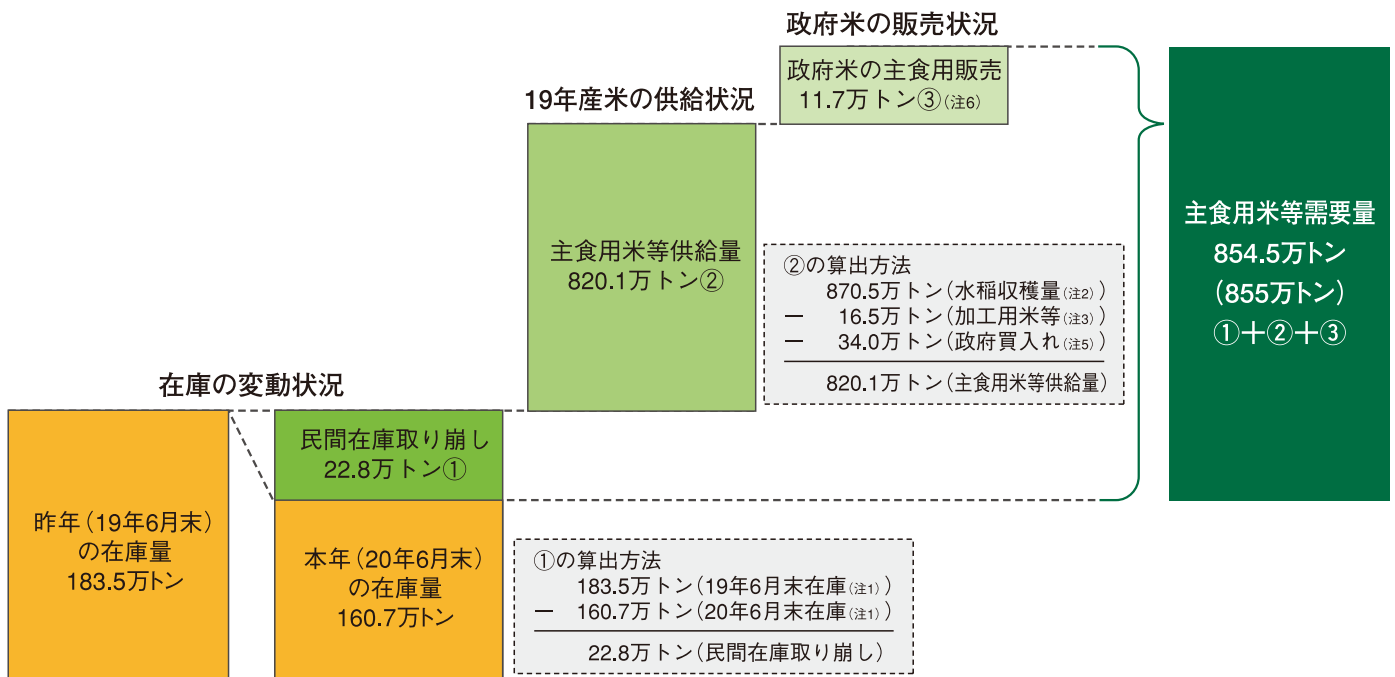
米穀機構情報部では、お米に関する様々な情報をホームページ「米ネット」及び紙媒体により提供をしています。その一環として「米穀機構・情報部かわら版」NO.12を発行いたします。今回は、基本指針(平成20年11月)より、米穀の需給見通し、平成21年産米の全国及び都道府県別の需要量に関する情報、食品値上げを背景にした今後の米消費について情報提供いたします。

I 米穀の需給見通し

1. 平成19/20年の需要実績

平成19/20年(19年7月から20年6月までの1年間)の主食用米等の需要実績については、小麦製品を含めた食料品全般の価格が上昇する中で、比較的価格が安定している米に需要がシフトする等により、図表1のとおり855万となりました。

図表1 平成19/20年の需要実績算出イメージ図(確定値)



※ラウンドの関係で計と一致しない場合がある。

注1: 6月末在庫は、玄米の取扱数量が年間500トン以上の届出事業者の在庫に10a以上の作付生産者の在庫推計値を加えたものである。

注2: 水稲収穫量は、19年産米の水稲収穫量(「作物統計」農林水産省大臣官房統計部)である。

注3: 加工用米等は、米穀の生産調整実施要領(平成20年1月31日付け19総食第949号農林水産省総合食料局通知)第3において生産調整の取組として取り扱う米穀等として定める加工用米及び新規需要米であって主食用米等へ供給されないことが確認された米穀である。

注4: 主食用等とは、国内で生産された水稲うるち米及び水稲もち米から加工用米等を除いた米穀である。

注5: 政府買入れは、19年産米の政府買入数量である。

注6: 政府米の主食用販売は、19年7月から20年6月までの政府備蓄米の主食用販売数量である。

2. 平成20/21年の需給見通し

平成20/21年(20年7月から21年6月までの1年間)の需給見通しについては、図表2のとおりとなります。

供給量は平成20年6月末在庫量260万トンに、主食用米等の生産量866万トンを加え、1,126万トンとなります。

需要量は小麦製品を含めた食料品全般の価格が上昇する中で、比較的価格が安定している米に需要がシフトしていることを踏まえ855万トン(平成19/20年の需要実績と同数)と見通します。

平成21年6月末の在庫量は、上記供給量及び需要量から算出して271万トンと見通されます。

図表2 平成20/21年の主食用米等の需給見通し

(単位:万トン)

		全体需給	うち政府備蓄米
20年6月末在庫量	A	260	99
20年産主食用等生産量	B	866	30
20/21主食用等供給量計	C=A+B	1,126	129
20/21主食用等需要量	D	855	30
21年6月末在庫量	E=C-D	271	99

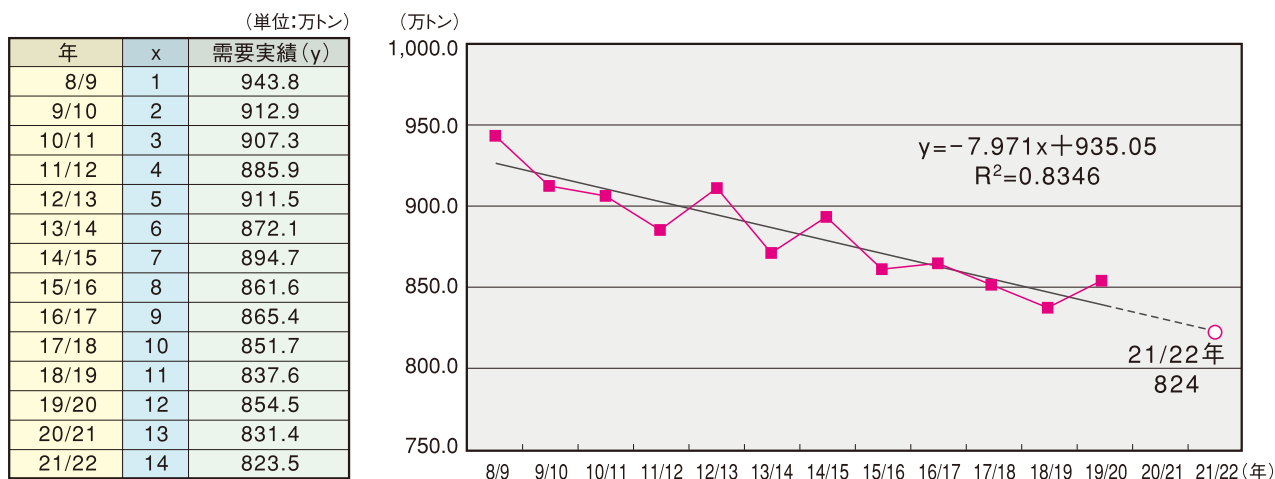
3. 平成21年産米の全国の需要量に関する情報

平成21/22年(21年7月から22年6月までの1年間)の全国の需要見通しについては、8/9年(8年7月から9年6月までの1年間)から直近の19/20年(19年7月から20年6月までの1年間)までの全国の需要実績を用いて、トレンド(回帰式)で算出すると、824万トンとなります(図表3)。

しかしながら、近年の需要見通しと需要実績を比較した場合、図表4のとおり需給動向による変動幅が生じているため、上記の824万トンから過去5ケ年の変動幅の平均値約9万トンを差し引いた815万トンを平成21/22年の全国の需要見通しとします。

なお、都道府県別の需要量に関する情報については、従来と同様、全国の需要量に関する情報を、各都道府県ごとの過去6年の需要実績中、中庸4年分の平均値のシェアで算出することを基本としていますが、生産調整の目標達成県と目標未達成県の不公平感を是正するため、①前年産の目標達成県については、前年産の目標より減少しないこと、②前年産の目標未達成県については、前年産の目標より増大しないこと、の調整を図り、815万トンとします(図表5、6)。

図表3 平成8/9~19/20年の全国の需要実績を用いた算出方法



図表4 需要見通しと需要実績との変動幅の推移

(単位:万トン)

	15/16年	16/17年	17/18年	18/19年	19/20年
需要見通し	870.3	859.4	852.8	843.9	833.1
需要実績	861.6	865.4	851.7	837.5	854.5
変動幅	8.7	6.0	1.1	6.4	21.4

変動幅の平均値約9万トン

図表5 平成21年産米の全国の需要量に関する情報

21/22年のトレンド値	①	824万トン
需要見通しと需要実績の変動幅	②	9万トン
21/22年の需要見通し	③=①-②	815万トン
生産調整達成県に対する調整分	④	4万トン
生産調整未達成県に対する調整分	⑤	▲4万トン
21年産米の全国の需要量に関する情報	③+④+⑤	815万トン (154万ha)

図表6 平成21年産米の都道府県別の需要量に関する情報

(単位:トン,ha)

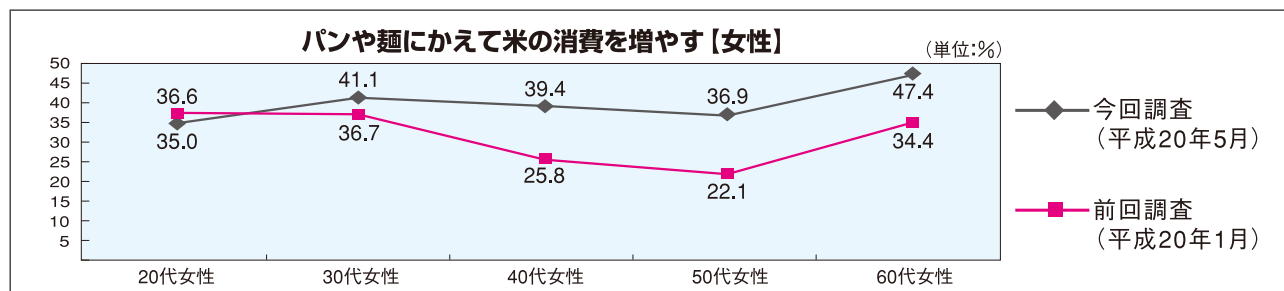
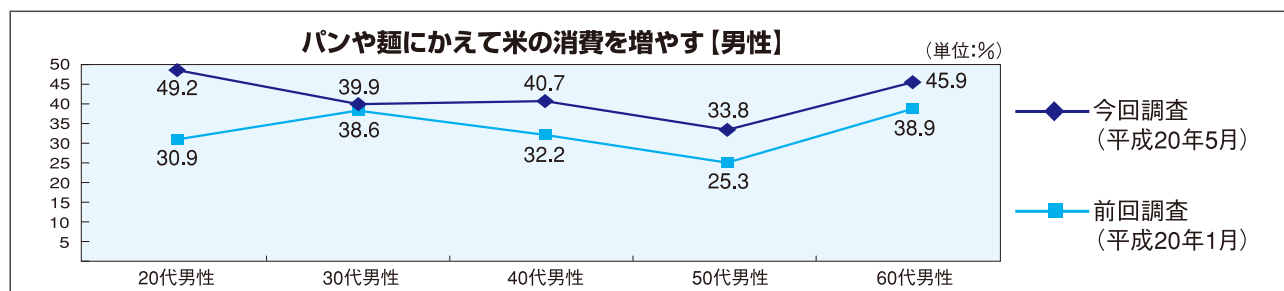
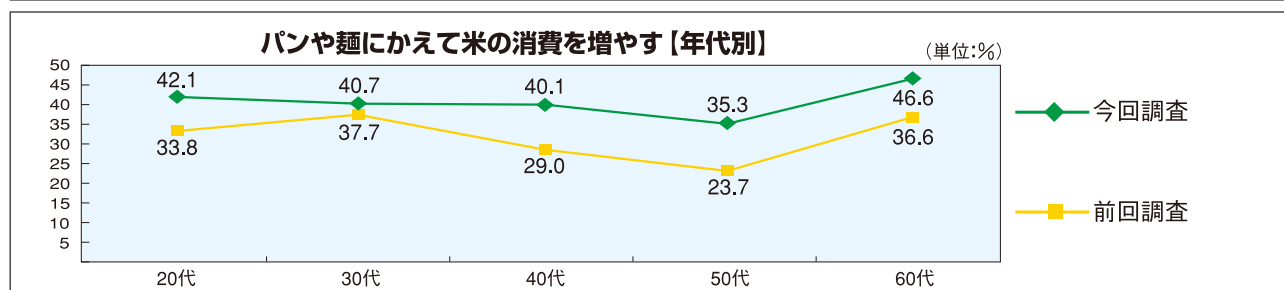
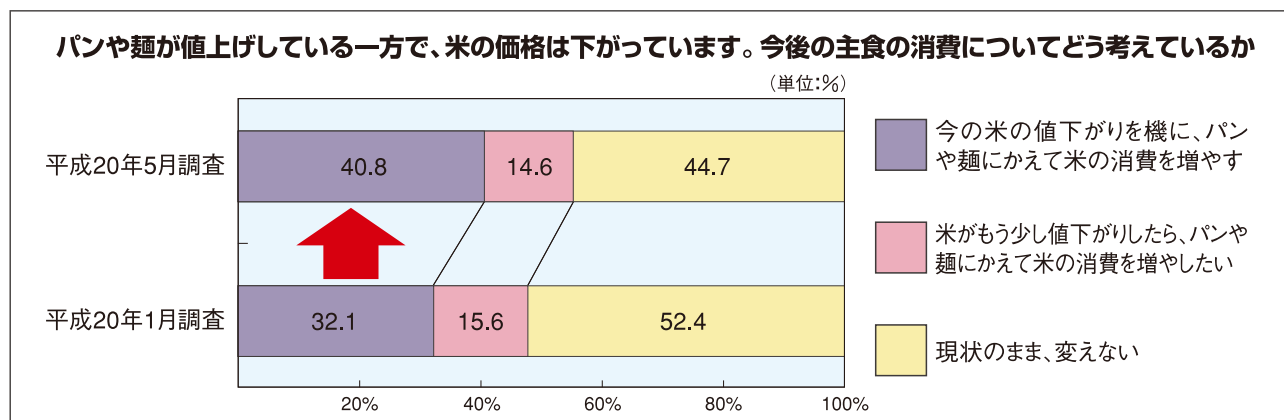
都道府県	需要量に関する情報	面積換算値	都道府県	需要量に関する情報	面積換算値
北海道	605,720	113,430	滋賀	174,810	33,750
青森	266,780	46,000	京都	80,880	15,830
岩手	295,830	55,500	大阪	27,970	5,670
宮城	382,980	72,260	兵庫	193,400	38,370
秋田	467,160	81,530	奈良	43,570	8,490
山形	381,930	64,300	和歌山	36,830	7,470
福島	365,000	67,970	鳥取	72,510	14,030
茨城	355,040	68,280	島根	98,050	19,260
栃木	321,240	59,600	岡山	167,000	31,750
群馬	83,160	16,830	広島	138,370	26,460
埼玉	161,140	32,550	山口	121,870	24,180
千葉	262,030	49,350	徳島	60,840	12,840
東京	930	230	香川	76,640	15,360
神奈川	14,930	3,070	愛媛	79,840	16,030
新潟	570,000	105,750	高知	51,980	11,320
富山	207,140	38,720	福岡	197,260	39,530
石川	132,700	25,670	佐賀	152,530	28,890
福井	136,330	26,370	長崎	66,340	14,000
山梨	28,620	5,230	熊本	206,460	40,090
長野	206,840	33,200	大分	127,160	25,280
岐阜	121,770	24,950	宮崎	103,150	20,920
静岡	87,310	16,690	鹿児島	120,600	25,180
愛知	144,140	28,430	沖縄	3,220	1,040
三重	150,020	30,000	全国計	815万トン	154万ha

II 食品値上げを背景にした今後の米消費

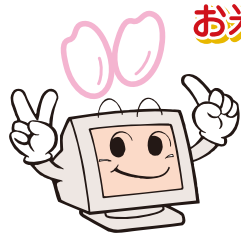
米の消費は、前回調査時に「パンや麺にかえて米の消費を増やす」割合が32.1%でしたが、今回調査では40.8%と米消費増加への機運が高まっています。

年代別・性別にみると、20代女性を除いて、すべての年代において上昇しました。

図表7 米消費の動向



資料:(株)日本政策金融公庫調べ



お米・ごはん情報満載のホームページ 米ネット

米穀機構のホームページ「米ネット」では、お米の価格・消費・生産などの統計データをはじめ、生産者の皆様向けのお米に関する情報やすぐに役立つごはん料理レシピなど最新の情報を常時提供しています。

また、生産者の皆様からの「米ネット」に関するご提案・ご要望をお待ちしております。

「生産者のコーナー」の中の「意見を投稿する」の投稿フォームからEメールをご利用ください。皆様のアクセスをお待ちしています。